



vol.2「らんまん」を目前に地元の動きも活発に!

*2023年2月発行 *企画・制作・発行・デザイン/ 朝ドラ「らんまん」を応援する会 〒789-1201 高知県高岡郡佐川町奥の土居 市川方 kawazumakeruna@bell.ocn.ne.jp



稲垣先生の草花ガイド 講座(座学) 於名教館



稲垣先生の草花ガイド講座(実践編) 於牧野公園



「牧野人」ご支援感謝 護国寺様(日高村) 菊池俊光様、菊池美恵子様

令和4年度高知県文化賞(学術)を受賞した稲垣典年先生は十数年前から、「牧野富太郎の歩いた道」(以下「牧野の道」)の整備を提唱され、大月町や三原村で「牧野の道」を歩くツアーを実施されてきました。

「もつともつと」牧野富太郎を知ってもらうために、高知県はもろんせめて各県に一つ二つ、牧野が実際に歩いた道を復元して、何年何月にここを歩いた、どんな植物を記録したというかを分けるようにしてもらいたい。そう、NHKの番組に吉田類さんの「つぼん百低山」があります、あれと一緒にのよ

うなことを「牧野の道」でやってもらいたい。そうすればもっと深く植物を見る機会が増える。牧野がどこでどんな植物を見たかは記録(「牧野富太郎植物採集行動録」等)に残っているわけだから、それを全国でやってもらいたい。牧野自身が書いた記録が残っていない場合でも、牧野と植物採集で同行した人達が何か残しているかもしれない。当時博物館に熱心だった小中学の先生方が日記等を書いていてと思う。ちよつと遅いかもしれないがそのご子息がそれを保管しているかもしれない。そういった情報を全国から集めていきたいと思っています。

「佐川さつやま遊友会」を結成。稲垣先生の指導のもと、牧野博士生誕地碑前から歩く「牧野の道」の整備復元が始まったところ。4月3日からいよいよ朝ドラ「らんまん」が始まりますが、それを契機に「牧野富太郎の歩いた道」にも関心が集まるといいですね。



佐藤彌市氏



「牧野富太郎の歩いた道」を復元しよう

「もつと深く植物を見る機会が増える」稲垣典年



「牧野博士の胸像を生誕地に建てる会」打合せ 写真奥：彫刻家の大野良一氏、左端：吉岡郷継事務局長



片岡雄司佐川町長(写真右奥)に挨拶



稲垣典年会長(写真右)



牧野富太郎墓所のある牧野公園

いよいよ今年令和5年4月3日から、牧野富太郎をモデルとしたNHKの連続テレビ小説「らんまん」が始まります。しかし、世界的な植物分類学者である牧野博士の生誕地佐川町には、昭和30年建立の胸像が佐川小学校にありますが一般の人の目に触れるところにはありません。そこで、有志が「牧野博士の胸像を生誕地に建てる会」(会長 稲垣典年、事務局 吉岡郷継「鳥形山山系の花たち」著者)を結成し、博士ゆかりの山野草の咲く牧野公園に胸像を建てようという計画をすすめています。

像は牧野博士が最後に高知に帰られた昭和13年、76歳頃の姿をイメージし、彫刻家大野良一氏によってその原型は制作されています(写真)。この計画には佐川町からも多大な協力をいただいておりますが、像の制作、設置費、台座の制作、設置費等々まだ250万円ほどが必要だそうです。

「あるいは植物の精かも知れん」と言い遺した牧野博士、その胸像が地元の花守達の整備している牧野公園で見られますよう皆様ご協力よろしくお願ひ申し上げます。(文・市川浩司)

ご成人、おめでとうございます! 神木隆之介さんと浜辺美波さんからのサプライズビデオメッセージも!



■お問合せ先
朝ドラ「らんまん」を応援する会
市川まで
〒789-1201
高知県高岡郡佐川町甲1452-1
電話 080-3159-3048

■募金の振込先
四国銀行 桂浜通支店(店番号117)
口座番号 5192688
口座名 牧野博士の胸像を生誕地に建てる会

牧野富太郎の胸像を生誕地に建てるよう —募金のお願い—



胸像原型の石膏像

「らんまん」のロケと「草木の人」の芝居が、偶然同じ日に！



西森さんの舞台挨拶の様子はこちらからご覧になってください。

10月23日はしみじみすこい1日だったと思います。牧野博士のふるさと佐川町桜座での開催で、地元からもたくさんの方が出演しておられた牧野富太郎伝「草木の人」。(当初の部だけの予定でしたが、チケット完売につき、急遽夜の部が追加上演されることになったので人気ぶりでした。)

地元佐川町からの参加者を含め、初めて舞台に立たれた出演者の方約半数。牧野博士に対する思い溢れる渾身の演技を、ベテランの役者さん方がしっかりと包んだ、見応えのある舞台でした。ここまで仕上げるのに、どれだけ努力を重ねてこられたかと思うと、胸が熱くなりました。同志として博士を支え続けた妻

絶好の撮影日和で、しかもコロナも落ちついてきていた状況。ここでも地元佐川町から28名のエキストラが参加し、「町の歴史に残る光景」が展開されていました。このにくいスケジュールの合致こそ、牧野博士の演出ではなかったか。博士があんな天真爛漫な笑顔で、ふるさと佐川町の様子を温かく見守ってくださっているように思えて仕方ありませんでした。

寿衛の働きと、博士の才能を認めて援助の手を差し伸べた人々のおかげで、一家は苦境を脱し、大正15年には大泉に居を移すことができました。寿衛が「ここに立派な植物標本館を建て、牧野植物園をつくりたい」という夢を語り、博士を励ます場面では、会場のあちこちから涙を拭いている人の姿が。私は「Jスエゴザ」の関係で、様々な資料の中で彼女を捜してききましたが、この場面を観た時、ようやく「寿衛さんにごえた」ような気がして、いろいろなことが腑に落ちました。また、この日は偶然にも、NHK朝の連続テレビ小説「らんまん」の佐川町ロケが行われており、上町のコンクリートの路面には土が撒かれ、明治の風景さながらの酒蔵ロードになっていました。



舞台は時に佐川町の「岸屋」であったり、東京大学の植物学教室になったり、東京の家族の住まいに転換されました。面白かったのは、植物採集を指導されている場面。そこがちゃんと野山に見え、確かに牧野博士が蘇っていました！



見慣れた酒蔵や金峰神社が舞台背景に！ 牧野博士のふるさとの子どもたちによるミュージカル「わたしは草木の精」が上演されました！



佐川町は、牧野富太郎博士のふるさとでもあり、植物学への興味の芽を育てた場所でもあります。そんな博士の子ども時代を描いたミュージカル「わたしは草木の精」(主催・NPO法人佐川町さくらスポーツクラブ)が11月27日に上演されました。10月に「草木の人」が上演されたばかりの佐川町「桜座」は、またしても大勢の観客たちの拍手に包まれていました。日頃から「*まちまるごと植物園」の取り組みなどで、町内には草花が溢れており、そんな町で育った子どもたち自らが花の妖精になって歌って踊る場面は、観ていて感慨深いものがありました。5月から稽古を重ねてきたという同町内の小中学生ら34人、彼らの成長を見守り育てて来られた舞台関係者、ご家族の方々、本当にお疲れ様でした！

「*まちまるごと植物園」とは、植物学者・牧野富太郎博士のふるさと佐川町で、町民が行っている植物に関わる活動を町全体で植物園に見立てて、植物を通じて人々がつながりあう「植物のまち」を目指した取り組みです。(まちまるごと植物園HPより)

神木隆之介 2023~2024カレンダーメイキング 神木×高知

神木隆之介(2023~2024)カレンダー発売中！ *詳細&購入はこちらからカレンダー関連グッズや書籍「かみきこうち」も販売中！ https://colavoshop.jp/ 2023年3月20日より、高知県内のキリン館(佐川町)・金高堂書店(帯屋町本店)・高知県立牧野植物園内 BotanicalShop nonoca・高知蔦屋書店でも限定販売を予定！

牧野記念庭園 Makino Memorial Garden 2022年 牧野富太郎 生誕160年

牧野博士が逝去するまでの約30年間を過ごした自宅跡地である「牧野記念庭園」では、生誕160年を記念して様々な取り組みが行われています。生誕160年記念事業の取り組みや庭園を紹介する動画をQRコードから、是非ご覧になっていただけたらと思います。